

踏み跡 < My mountains >

ハケ岳	北ハツ(高見石から横岳)	No.085
-----	--------------	--------

昭和42年5月19日

新宿駅21時30分集合、誰も来ない。22時15分乗車、乗ってから恩田がようやく登場。座席を確保して、あとを恩田に任せ京王線ホームへ移動。笹塚まで行き、姉の家で弁当を貰ってまた新宿駅にUターン。遅番で仕事が終わってすぐに出かけるときには、昼のうちに電話で頼んでおいて…こういう芸当もする。列車に戻るとさすがに全員そろっていた。メンバーは、恩田、石関、太田、八十岡、野中、小林の混成 6名。23時45分発車。金曜でしかも給料日前なのに予想に反して満員。おそらく公務員の野中さん以外はまだ給料日ではないので、乏しい財布ではなかろうか？

昭和42年5月20日

茅野、バスは6時50分発なのでバスターミナルで朝食。(バス代150円)

硫黄の臭う渋の湯は三度目か。太田さんの希望で、我がキスリングを彼女に背負わせて軽い荷物で出発。10時30分高見石分岐、キスリングをここで交代。夏テントが入っているキスリングを背負ってよくここまで登ってこられたものだ。太田さんの予想外の力に驚いた。ここから高見石を往復。

高見石、眼下に白駒の池、そして御岳、乗鞍、中央アルプス、北アルプス…、南アルプスは甲斐駒、北岳。池がきらきら光って美しい。林の中ではルリ、サンコウ鳥がさえずり天気も良いし、最高の気分。11時出発。丸山(2329.9m)に登るにつれて南部の天狗、硫黄が少しずつ姿を見せてくる。

麦草峠(2120m)は車の通れる道が通っており、何となく風情が失せた感じがするが、笹が一面に茂っている原っぱは一休みするのに最適。道路を渡ってまた山道へ。

茶白山(2384m)13時35分、二度目の昼食。

(右写真:茶白山頂上にて)14時40分出発。

縞枯山(2403m)、その名が示すとおり山。立ち枯れた木の白い乾いた感触とまだらに残る「生きている木々」、それらの織り成す模様が何とも言いようのない素晴らしさである。木の根、切り株、枯れ木、倒木、前衛美術の展覧会のような縞枯山頂上。そしてその先に雨池の静寂そのものの水面がある。幕営禁止ではあるが、この辺ではここしか適した場所がないので(やむを得ず)岸边に幕営。(2067m)夕食はカレー風野菜スープ、食後には、太田さんがこのために丁寧に梱包してきた茶道具を出してお茶会。



空に出た月齢10日ぐらいの月は雨池の水面にその姿を映し、周囲の森林も月明にその姿がわかるほどの明るさ。星も数多く、火星がひととき目立って見える。風は冷たく、月の光も時が経つにつれて冷たい光になってきた。

20時30分シュラフィン、隣の女性陣のテントは初めてのシュラフとかで遠足の前の晩のようなありさま。ウトウトする度に嬌声(叫声?)に起こされたが、いつしか誰からともなくいびき。

昭和42年5月21日

起床4時40分、天幕が凍っている。かなり寒かったようだ。幕営禁止エリアゆえゴミを残さぬように片付け。6時35分出発。新しくできた車が通れるような立派な道をしばらく歩いた後、雨池峠への小道に入る。雨池の上に浅間山、黒斑山方面と秩父の千曲川沿岸の山々が。縞枯山と同様に倒木と立ち枯れの木々の間の泥んこ道を歩き、たいした登りもなく雨池峠(2241m)に到着。

踏み跡 < My mountains >

横岳は南八ヶ岳の横岳と区別するために「北横岳」とも呼ばれる。横岳への登りはだらだらとした登りで、北に登ったあと平坦に西へ。

主峰の直下に横岳小屋がある。(右写真:横岳からの蓼科山)
東の肩からの眺めは、南部の山々、硫黄・天狗・横岳・赤岳・中岳・阿弥陀・権現・・・、わずかに残った残雪の様子が夢想的である。肌で感じる印象は「暑い」。木曾御岳、薄雲の彼方に仙丈、甲斐駒、北岳、中央アルプスもほんのりと。



横岳小屋で昼食。予定としては蓼科山を越えて温泉に下るつもりだったが、どうも時間的に無理そうな気がする。

おまけに、もし私鉄バスのストライキが解決していないと大変なことになるかもしれない。そんなこんなで、蓼科山は断念し坪庭から八丁平経由で親湯へ下山することに決定。食事の後横岳頂上(2480m)を往復。

頂上からは大河原峠付近の草原のような広がりと一点の雪を残した蓼科山がなかなか良い。温泉付近の別荘などの屋根の赤や白の連なりがアクセントになっていて面白い。

坪庭は桜島の溶岩台地のような所で、様々な形の溶岩の造形が楽しい。横岳、縞枯山、茶臼山に囲まれた「壺庭」とでも言ったらいいような庭である。坪庭の出口には建設中の横岳ロープウェイの終着駅。7月には完成するとのことである。

広い道の両側はクマザサ、アカマツ、モミ、シラカバ・・・、時々振り返って蓼科山を見たり・・・、最後は別荘と

別荘の間を通り抜けて、温泉プールの前のバス停へ。ストライキも解決したとのことで、無事帰宅することができた。

以上

(修正・更新:2023年11月)

